



早稲田大学
WASEDA University

JSET

日本教育工学会

第23回 全国大会 講演論文集
PROCEEDINGS OF THE 23rd ANNUAL CONFERENCE OF JSET

2007

情報配信システム K-tai Campus の高等教育機関での利用

Usage of K-tai Campus in Higher Education Institutions

葉田 善章 篠原 正典 清水 康敬

Yoshiaki HADA Masanori SHINOHARA Yasutaka SHIMIZU

独立行政法人 メディア教育開発センター 研究開発部

Research & Development Department, National Institute of Multimedia Education

〈あらまし〉 高等教育機関において、円滑なキャンパス運営を支援するためにメディア教育開発センターでは学生が持つ携帯電話を対象とした情報配信システム K-tai Campus を開発し、運用サポートを含めたサービスを提供している。本稿では K-tai Campus が大学等の高等教育機関での利用例について報告する。

〈キーワード〉 高等教育, 授業実践, ICT 活用教育, 携帯電話, Web 利用, コミュニケーション

1. はじめに

ほとんどの大学生が持つようになった携帯電話は、キャンパス運営の情報提供を行うメディアとして注目されている。従来とられてきた連絡手段は、学生全体への連絡を行う掲示板や主に緊急時の電話連絡などがある。掲示板は、情報の受け手である学生が掲示されている場所に足を運び、自分が必要な情報を探す能動的な連絡手段である。電話連絡は学生個人や授業単位、学科単位、学部単位、大学全体の学生に一人一人に直接大学から連絡される受動的な連絡手段である。

携帯電話は能動的、受動的な情報提供の両方に対応できる。携帯サイトでの掲示板は従来の掲示板を置き換えるだけでなく、「いつでも、どこでも」学生が情報を確認できる環境を実現する。キャンパス運営においては特に遠方から通学する学生へのサービス向上につながる。さらに、学生に必要な情報のみが抽出されて表示されることから、学生の不注意による確認ミスの低減も期待できる。携帯電話のメールは、電話の着信と同様に届いたことが通知されるという特徴があり、確実にメールが来たことがわかるようになっている。さらに通話と異なり、連絡を取りたい相手の都合を考慮する必要がなく、一斉に送信できる利点がある。さらに、相手の都合がいい時に折り返して連絡を求めることもできる。このことから携帯電話は従来の連絡手段の補完として期待できる。利用の設備投資では、ほとんどの学生が持つため、学生へのインフラ整備は必要なく、機関がサービスを開始するだけで提供できる。

本稿では、筆者らが受け持つ大学での授業運営において独立行政法人メディア教育開発センタ

ー(以下、NIME と表記)が開発し、サービスを提供している K-tai Campus を利用した事例について、最終講義で行った学生へのアンケート結果を交えて紹介する。

2. K-tai Campus の概要

携帯電話による情報配信システム K-tai Campus は携帯電話が持つ特徴を生かした ICT 活用による円滑なキャンパス運営を支援するために開発された(葉田ほか 2006)。既に私立大学を中心として数機関で利用されており、運用サポートを含めたサービスを提供している。

本システムは図 1 のように利用機関にサーバを置かない ASP (Application Service Provider) 形式でサービスが提供される。K-tai Campus が提供する機能はテンプレートで分類された項目を持つ掲示板とメール配信機能である。講義の質問をシステムから行えるなど、講義のための機能も用意されている。

3. 高等教育機関での利用

K-tai Campus は携帯電話を用いた学内のコミュニケーションを、個々の大学が開発費用や設計

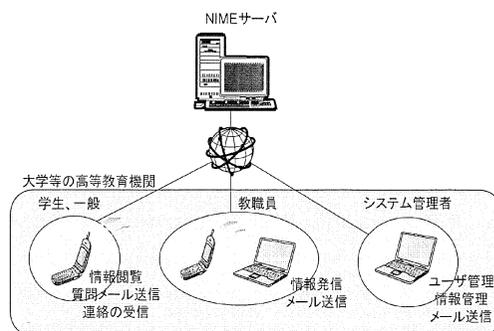


図 1 システムの概念図

の負担を掛けずに利用できることを目標として開発を行った。サービスの提供形式は構築システムの維持や管理が不要となる ASP 形式である。利用機関は短期大学や新設大学など、予算的にシステムの導入が難しい機関が多いため、無償で機能が利用できること、国の機関によるサービスであることに評価が得られている。

利用機関は、総務課や教務課など、事務の方から申し出があったケースは、全学的な利用となっている。学生への一斉連絡を目的として導入する機関が多く、メール機能の利用が多い。授業の補講など、緊急性が低い情報を提供する機関では、掲示板の利用が多くなっている。利用機関からは、システムは問題なく安定して利用できるとの評価を得られている。

個人情報保護法の施工に伴い、どの機関も学生の情報の管理は厳重である。データのやりとりでは、FD を使い、郵送で行った例もある。最も気にする機関では、教員が使う画面において学生のメールアドレスが見えるのを嫌い、掲示板の利用を行っている機関があり、個々のセキュリティポリシーへの配慮を行っている。

特に近年では、はしかなど法定伝染病の流行により、全学的な連絡網を構築するために全学一斉に、しかも個人への連絡が可能な携帯メールが注目を浴びている感がある。ある機関からは早急にシステムを入れたいという申し出が7月にあり、申し出への対応を早急に行っている。さらに、学生個人への連絡のみならず、成績通知など学生と保護者を含めた連絡を取るために、高等教育機関の連絡手段として重要になりつつある。

我々が非常勤講師をしている理系情報系学部4年生の講義においては、2005年度から2007年度の3年に渡ってPCサイトとの使い分けを前提として本システムを利用した。PCサイトでは講義スライドや授業で行った小テストの解答などのコンテンツを掲載した。K-tai Campusは受講者である学生に授業情報を伝達する目的と、学生からの質問を受け付けるために利用した。事務連絡では携帯へのメール配信機能を利用した。

K-tai Campusでは、図2のように利用者IDを中心として情報を管理するため、大学を登録した後、講義情報、利用者の情報(学生の学籍番号、名前、メールアドレス、講義情報との関連、教員の名前)をそれぞれ登録した。メールアドレスの登録は、1)IDとパスワードを予め発行しておき、学生が登録する。2)学生から名前と学籍番号を書いたメールを送ってもらい、管理者が手作業で登録する。の2種類がある。

我々は、2006年に1)、2005年と2007年に2)の登録方法を試した。2006年の例では、55%の学生が登録した。2007年は1)で行ったが、80%の登

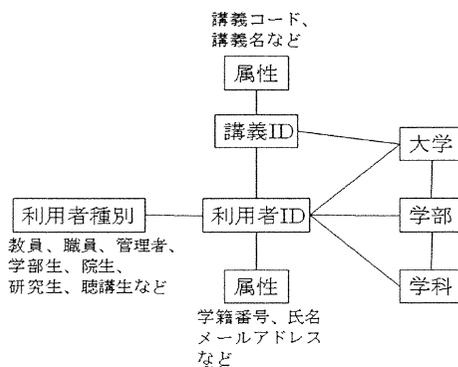


図2 情報管理の関連イメージ

録であった。学生に入力作業を任せただけの場合、メールアドレスの打ち間違いや登録し忘れが多いことや、面倒がって登録しないケースが目立った。このため、QRコード等の提供を行い、登録の負担を軽減させることが重要であるといえる。

学生の中にはシステムに登録せず、利用しないものもいた。理由の中には必要がない、周りの人が登録しているため自分は登録する必要がない、忘れていた、が見受けられた。携帯電話への情報配信サービスは、キャンパス運営に便利をもたらす反面、学生に情報を得ることの利点を理解してもらい、協力を得ることが重要だといえる。

4. おわりに

キャンパス運営において、対面での学生とのコミュニケーションはとりにくいが、本システムを介して従来よりも密なキャンパス運営支援を実現できたと考えられる。本システムは基本的な機能を提供しており、運用により様々な高等教育機関の利用に対応できることが大きな特徴である。

現在も引き続き、システム利用の募集を行っている。本システム利用の手引きとなる報告書も刊行した(葉田ほか2007)。本システムを安心して利用していただけるよう、引き続き改善を進めて行く予定である。利用は無償であり、気軽に問い合わせいただきたい。利用単位は講義単位、学科、学部でも構わない。

利用希望および問い合わせ先: k-tai@nime.ac.jp
システムホームページ: <http://k-tai.nime.ac.jp/>

参考文献

- 葉田善章, 篠原正典, 清水康敬 (2006) “携帯電話を用いた情報配信システムによる高等教育機関へのサービス提供”, メディア教育研究, Vol. 3, No. 1, pp.117-123.
- 葉田善章, 篠原正典, 清水康敬 (2007) “K-tai Campus: 携帯電話による大学情報配信システムの開発とその利用”, NIME 研究報告 32